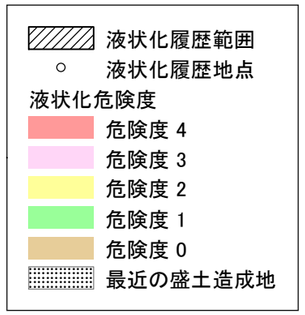
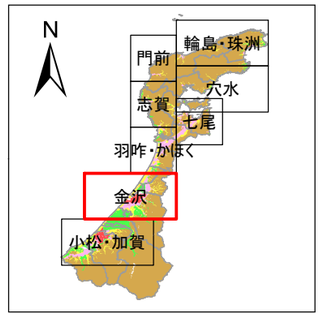
金沢地域

液状化しやすさマップ



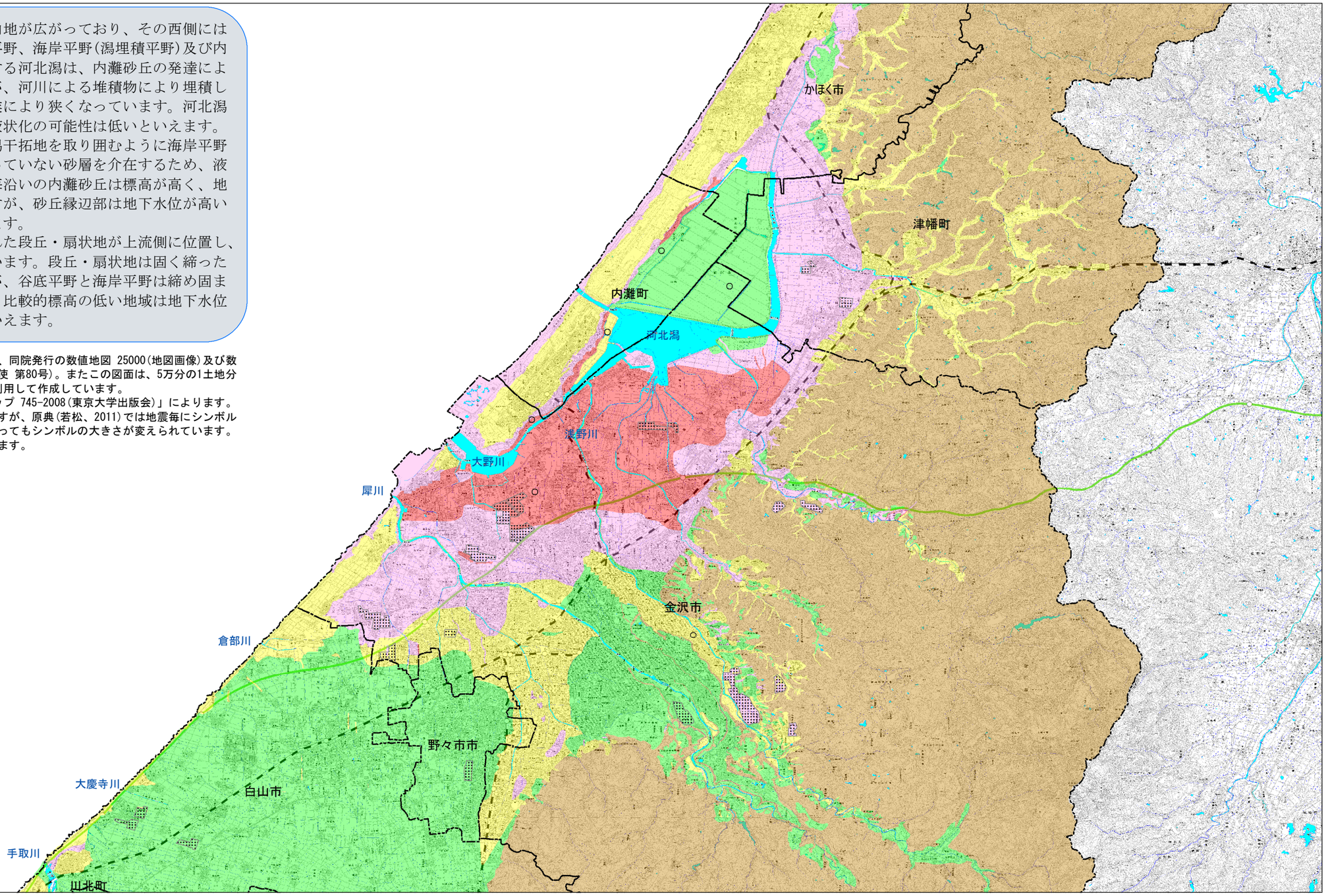


0 1.25 2.5 5 km

本地域の東部には津幡・森本丘陵と加越山地が広がっており、その西側には日本海に向かって概ね段丘、扇状地、氾濫平野、海岸平野(潟埋積平野)及び内灘砂丘が分布しています。また北部に位置する河北潟は、内灘砂丘の発達により日本海から切り離されて生じた水域(潟)が、河川による堆積物により埋積して形成されたものであり、その後の干拓事業により狭くなっています。河北潟干拓地は主に粘土で構成されているため、液状化の可能性は低いといえます。

津幡町から内灘町に至る地域には、河北潟干拓地を取り囲むように海岸平野が分布します。この地域の地盤は締め固まっていない砂層を介在するため、液状化の可能性があると想定されます。日本海沿いの内灘砂丘は標高が高く、地下水位は低いため液状化の可能性は低いですが、砂丘縁辺部は地下水位が高いため液状化の可能性がある範囲と想定されます。

金沢市は犀川及び浅野川によって形成された段丘・扇状地が上流側に位置し、下流側には氾濫平野と海岸平野が広がっています。段丘・扇状地は固く締った砂礫を主体とし液状化の可能性は低いですが、谷底平野と海岸平野は締め固まっていない砂層と粘土層で構成されており、比較的標高の低い地域は地下水位が高いため、液状化の可能性がある範囲といえます。

この地図の作成にあたっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図 25000(地図画像)及び数値地図 25000(土地条件)を使用しています(承認番号 平25情使 第80号)。またこの図面は、5万分の1土地分類基本調査(地形分類図) 石川県発行(1982～2006)の一部を利用して作成しています。

液状化履歴は、「若松加寿江(2011) 日本の液状化履歴マップ 745-2008(東京大学出版会)」によります。本マップには過去の液状化履歴が○印でプロットされていますが、原典(若松、2011)では地震毎にシンボルが変えられており、また液状化が発生した地点の確実度によってもシンボルの大きさが変えられています。本マップではこれらを区別せずに同じ記号でプロットしています。